

いしかわ 県薬レポート

2010、1 No.62

編集発行

金沢市広岡町イ25-10
(石川県薬事センター内)

社団法人 石川県薬剤師会

会長 徳久 和夫

目 次

- 年頭所感
石川県薬剤師会
会長 徳久 和夫…2
- 新年挨拶
日本薬剤師会
会長 児玉 孝…3
- 新年を迎えて
藤井 基之…4
- 院瀬見義弘先生の叙勲を祝う会…5
- 北陸三県若手薬剤師フォーラムに
参加して
金沢医科大学病院 政氏 藤玄…6
- 薬史学会 徳久 和夫…8
- 第49回北陸信越薬剤師大会
第42回北陸信越薬剤師学術大会…11
- 石川県女性薬剤師会オープン講座
子育て教室
いっしょに考えよう
たくましい子育て成功の秘訣
佐倉 有紀…12
- 県民のための健康講座(予告)……18
- 浄瑠璃寺
～朱印事始めと安倍夫妻との
一度きりの寺巡り～
院瀬見義弘…19
- 映画「おとうと」の紹介……………24



三浦 智子 画



年 頭 所 感

石川県薬剤師会

会 長 徳 久 和 夫

明けまして、おめでとうございます。

平成22年(2010)は、私たち薬剤師にとって格別の年となります。すなわち薬学6年制度第一回の病院・薬局実務実習が始まるのです。ついこの間までは、まだまだ先のことの様に思っていたかたも、あと三ヶ月と迫った今は、ひしひしと迫ってくる現実感に緊張が高ぶっていることでしょう。後輩の育成に努めることは現場薬剤師の重要な社会的使命であることは、いまさら論を俟ちません。

かねてより本会は、この日のくることを期して、薬局実務実習受け入れ体制の整備構築を進めてきました。幸いにも本会の場合、北陸地区調整機構の適切な指導のもと、地元薬系二大学の理解と協力をいただき、地域性を考慮した整備作業の行程を順調に消化できたことは、ひとえに会員各位の熱意のたまものと、心からうれしく存じます。規模的・地勢的ハンディはあるものの、本県の実状に即した薬局実務実習をためらいなく実行できるであろうことを信じて疑いません。

この夏(たぶん6月)には、全国薬剤師の存亡を賭けた参議院(全国区)選挙があります。藤井もとゆき後援活動の総決算です。医療をとりまく環境は益々厳しくなり、このまま推移するとすれば薬剤師に関わる問題は不安材料ばかりが増幅することは、この四月施行の調剤報酬改正案を見て

も明らかです。なぜ、参議院に薬剤師議員が必要なのか。なぜ「藤井もとゆき」なのか。会員各位ひとり一人の胸の中に、しっかりと埋め込まれていることと思います。国政の場にHealth Professionalと自負する薬剤師が、その専門性ある発言の機会を持つことができなければ、何をもって「患者のため」の職務と使命を果たせるのでしょうか。薬剤師の結束が試されるのです。薬剤師のパワーが試されるのです。薬剤師の存在そのものが試されるのです。

今年の干支は「庚寅」(かのえとら)。庚は「更」(あらたまる)、寅は「演」(ひっぱる、のぼす)の意があり、ともかく今年は新たに直面する事態に対して目標をもって前進する覚悟が求められています。「寅」に動物の虎があてられているのも故なしとはしません。寅には「敬」(とのえつつしむ)の意があるからです。

薬剤師が今、置かれている状況を「前門の虎、後門の狼」と捉えるか。また、「虎穴にいらずんば虎児を得ず」と勇気をふるうのか。はたまた、「虎の威を借る狐」と墮するか。あるいは、また「虎口を脱する」のに汲々とするのか。決めるのは、ひとり一人の薬剤師であることだけは、確かです。「張り子の虎」は置物だけにしておこう。

(平成22年1月元旦)



新年挨拶

日本薬剤師会

会長 児玉 孝

明けましておめでとうございます。

会員各位におかれましては、心新たに新年をお迎えになられましたこととお慶び申し上げます。

さて、2年後から6年制薬剤師が社会へ、そして3年6ヶ月で日本薬剤師会が創立120周年を迎えます。そのような節目に向け、薬剤師、薬剤師会はさまざまな努力をしているところですが、本年2010年の重要な課題を都道府県薬剤師会のレベルで考えますと次のような点であると思います。

①調剤報酬改定

政権交代による政治活動の変化により、今回も厳しい改定となりますが、新政権の考え方が病院中心であることから、オール薬剤師の立場から病院薬剤師の評価、一方、調剤においても、マイナス改定が続いていることにより収支が悪化している現状から、プラス改定を要求しているところです。

なお、高齢社会への対応から、今後は、薬薬連携、多職種連携、入院から在宅へ、チーム医療、がキーワードになると思われます。

②薬学教育6年制実務実習

いよいよ、本年5月より、実務実習が始まります。都道府県薬剤師会の皆様方には、認定実務実習指導薬剤師の養成にご協力を賜っておりますことに、執行部一同、心より感謝申し上げます。初めてのことで何かとご苦労があると思いますが、薬剤師の将来を担う学生のために支部も含めて対応をお願いします。

③公益社団法人改革

行政の考え方が確定しないために苦慮しておりますが、何とか本年中に日本薬剤師会は公益社団法人の申請を行う予定です。

各都道府県におかれましては日薬を参考に本格的な取組の開始をお願いします。

なお、何度も申し上げておりますように、都道府県薬剤師会にとっても、組織の将来を決める重要な事柄でありますので、よろしくをお願いします。

④改正薬事法への対応

来年(平成23年)5月末までの経過措置に伴い、インターネット、郵送問題の論議が再燃することが予想されます。

そのためにも、会員のOTC医薬品、特に第一類への取組み、そして対面販売の実行化等により社会からの理解が不可欠です。開局薬剤師の将来に大きく影響を及ぼすことでもあります。会員各位の実践をよろしくをお願いします。

⑤政局への対応

政権交代により政局が混乱、私共会員にまで影響を及ぼしております。

こういう時こそ、まどわされず、又、政党争いに巻き込まれることなく、毅然として医薬品の適正使用を通じて、国民の医療・保健に寄与する薬剤師職能団体として、従来通りブレずに行動するべきと思います。

以上、要点を述べてまいりました。

この他、中央レベルでは、全国会員の薬剤師の“城”づくり、研修の拠点作りとして、仮称“日薬会館”の建設、オール薬剤師のための生涯学習システムの構築、そして何より重要な、薬剤師の将来ビジョンの策定などに執行部一同全力を尽くしたいと考えています。

終わりにあたりまして、薬剤師会及び会員の皆様にとって本年が良い年であることを祈念して新年の挨拶とさせていただきます。



新年を迎えて

元参議院議員 藤井基之

皆様、新年明けましておめでとうございます。年の初め、大きな期待をいただきながらお正月をお迎えのことと存じます。本年もよろしく願い申し上げます。

今年は寅年。寅年は発展の年だそうです。ある説によれば、干支は、子、丑、寅…と続いてゆきますが、そもそも干支は、植物の一生を表わしているのだそうです。

一昨年は子年、昨年が丑年でしたが、子は“孕”を意味し、まず種子に命が宿る、ということの意味し、“丑”は“紐”で種子の中に紐のような新芽が生まれ、そして今年の干支、“寅”は、“演”を意味し、“演”は、“延（エン）”と同音で、意味も延びるとか広げる、という意味。例えば、「演説」と言えば、自分の説を述べ広げること、公演、と言えば、お芝居などを大勢の人達に見せることです。つまり寅は、その新芽が種子から外に伸び、大きく成長し始めることを意味しているのだそうです。

さて、昨年の衆院選挙の結果、自民党から民主党へ政権が代りました。新政権の医療政策がどのような方向を目指すのか、まだ具体的にはわかりません。

昨年4月、ある病院が院外処方せんの発行を突如中止、院内に戻すという事態が起こりました。その理由は、病院経営には薬価差益の方が有利である、というのが理由だと言われています。医薬分業は、医師法と薬剤師法が法的根拠となっていますが、

その医師法、薬剤師法に、処方せんを発行しなくてもよい例外規定が設けられています。これらの規定は昭和31年に実施されたものですが、今回のような事例を防ぎ、処方せん調剤を通じ、医薬品の適正使用、安全確保という薬局、薬剤師の役割を果たすためには、今日の事情に合わせた医薬分業制度の法的見直しが必要です。また、薬剤師業務範囲の拡充強化、セルフメディケーションにおける薬剤師職能の確立など、私たちの課題は山積しています。これらの夢を実現するためには、多くのハードルを超えなければなりません。しかし、それを恐れているのは、職能の確立はありません。

昨日の夢は、今日の希望、明日の現実。

“虎穴に入らずんば、虎児を得ず”という有名な諺があります。ご承知のように、何か、大きな目的を果たそうと志したときは、危険を冒すことも覚悟しなければならない、という意味です。ホンダの創業者、本田宗一郎氏の言葉にも、「挑戦した後の失敗より、何もしない事を恐れる」という言葉があります。

薬剤師の夢の実現に向かって、再挑戦のこの年を、寅の干支の通り、大きく伸びる発展の年としたいと存じます。よろしくご指導のほどお願い申し上げます。

本年が、皆様にとりまして一層のご発展の年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

院瀬見義弘先生の旭日双光章受章を祝う会

平成21年7月20日ホテル日航金沢において、院瀬見義弘先生の旭日双光章を祝う会が行われました。ご存じのように平成21年4月、院瀬見先生におかれましては、これまでのご功績により旭日双光章を受章されました。先生は、薬剤師免許取得後、金沢大学医学部附属病院、公立石川中央病院、金沢社会保険病院、石川県済生会金沢病院において勤務なされ、病院薬剤師一筋にご活躍されてきました。また、長年にわたり石川県病院薬剤師会会長、石川県薬剤師会副会長という重責を担い、本県の薬剤師の職能発展や薬学教育に多大なご尽力を戴いております。

お祝いの会は、院瀬見先生ご夫妻の入場

から始まり、発揮人代表である石川県薬剤師会 徳久会長の挨拶、そして、ご来賓の方々のそれぞれの立場から心温まる祝辞が述べられました。これもひとえに、人との出会いを大切にされる先生のお人柄によるものと感じられました。

院瀬見先生は、現在もなお、石川県病院薬剤師会顧問、石川県薬剤師会参与、金沢看護専門学校や石川県立看護学校の非常勤講師をお勤めになられ、未だご活躍の先生には頭が下がる思いです。先生のご業績が高く評価され、このような榮譽として認められたことは、先生はもとより、われわれ薬剤師にとっても非常に喜ばしい次第です。



北陸三県若手薬剤師フォーラムに参加して

金沢医科大学病院 政 氏 藤 玄

平成21年8月29日(土)金沢マンテンホテルにて北陸三県若手薬剤師フォーラムが開催されました。このフォーラムは、北陸三県から薬学生、薬局薬剤師、病院薬剤師25名の参加者と、21名の指導者により、先人薬剤師の努力の成果を次世代薬剤師に引き継ぐために何をなすべきかという課題を検討・共有することを目的として開催されました。

最初に、日本薬剤師連盟副会長中本行宣先生による「新時代の薬剤師・薬剤師はどうなりたいのか？」という基調講演を聴講しました。先生の講演により、現在に至るまでの経緯を理解することができ、今後どこへ進むべきなのかを考える良い機会を与えていただいたと思います。

Aグループのテーマは、「職能の確立のためには政治力の強化が必要であることを理解する」でした。「薬剤師としての調剤権をもちながら、その薬剤師の職能を最大限に生かしていないのではないか」という問題点が挙げられ、最終到達目標として、薬剤師の職能が発揮できる環境の確立、薬剤師としての権利を明確にするという2点が発表されました。

Cグループのテーマは、「薬学生の実務実習をより効果的にするために必要なものは何か」でした。薬学部の受験者が減って

いる。薬剤師に魅力がなくなっている。いろいろな体験（外部講師等）をさせるための費用が少ない。以上の3点が問題として挙げられました。これを、解決する為には、薬剤師の質をあげ、薬剤師の報酬を増やし、より魅力ある薬剤師像を見せることが必要である。これらを実現する為に、国会の場で薬剤師の主張を発言することが大切であると発表しました。

私が参加したBグループのテーマは、「会員の政治への関心を高めるにはどうしたらよいか」でした。問題点として、最も



大きなものは、「身近な業務と政治との接点を理解してない」、「薬剤師の立場の危機感を感じていない」、「現状を知る機会が少ない」などを挙げられました。これに対し、「すべての薬剤師が日常業務と政治との関わりを理解し、現在の危機的状況を打開するために、薬剤師会と病院薬剤師会が団結する」という目標を設定し、アクションプランとして、「薬剤師議員がいなく



なったら今後薬剤師はどうかという現状を踏まえた、フローチャートを作成し、会員に周知する」、「ミニ集会を開く」、「研修会に組み込む」、「各自の意識改革を行い、問題意識の共有を図ること」などを提示しました。

今回、フォーラムに参加して、薬剤師は未だ自立していないと感じました。自分たちの立場を確固たるものにする為に、日常的に問題意識を持ち、将来薬剤師になろうとする後輩たちが、更に魅力を感じる職種とするための努力を続けていくことが、我々の責務であると認識しました。これを、実現する為には、政治に関心を持ち、国会や政府に対し薬剤師の意見・要望を伝えていくことが重要であると理解しました。

グループのテーマを、翌日の発表で、問題解決から目標を設定し具体的な方針を検討することは、上手く出来たとはいえませんが、少なくともここに集った参加者全てが共有できたと感じられました。このような機会を、多くの若い薬剤師に経験してもらい、我々薬剤師の社会的地位の向上という目標を見据えた大きな流れにしていかねばならないと考えました。

今回、フォーラムに参加させていただいたことを深く感謝いたします。また、指導して下さった先生方に重ねて御礼申し上げます。

日本薬史学会 2009 年会 (金沢)

2009年会長 石川県薬剤師会
会長 徳久和夫



平成21年11月7日(土)・8日(日)の両日、金沢において日本薬史学会2009年会が開催された。本年会は日本薬史学会・石川県薬剤師会の共同主催で開催されたものであるが、石川県・金沢市後援・北陸医史学会・金沢大学・北陸大学・日本東洋医学会北陸支部の協賛のもと、図らずも日本医史学会の後援をも得て、意義ある学会となった。

○第一日目(7日)は午前10時50分より午後5時まで、金沢大学(角間キャンパス)自然科学本館において特別講演2題、一般講演16題(口頭発表9題、ポスター発表7題)で行われた。

特別講演Ⅰ：『加賀の奇才、からくり師大野弁吉の医薬知識』と題して石川県立歴史博物館学芸課長(文学博士)本康宏史先生により、これまでは『加賀の平賀源内』と称えられてきた細工師弁吉が、主著『一東視窮録』の詳細な分析と弟子たちの技術

分野・業績の広範な考察から、実は『加賀のレナルド・ダ・ビンチ』と呼ばれるにふさわしい「科学知識を身につけた技術者」であったことが、加賀前田藩の伝統的な学芸育成策を対比軸として語られた。

特別講演Ⅱ：『スロイスとホルトルマンの基礎医薬学講義』では金沢大学名誉教授板垣英治先生から、明治二年に招聘されたオランダ医師スロイスが金沢県医学館で行った舎密学講義録を綿密に考証した結果、水は H_2O 、硝酸が HNO_3 など、分子式、化学式が現在私たちが使用しているものと同じ表記法を使用しており、わが国の近代化学の始まりは、従来の大阪・舎密局説を覆し、金沢であったこと。また、明治八年来沢した後任のオランダ医師ホルトルマンも、有機化学、実験舎密学等の講義ではベンゼン構造を環状モデルで紹介しており、ケクレによる六角形に先立つ「最初のベンゼンモデル」であったこと。などなど、当時の金沢における医薬学教育のレベルがわが国での最先端にあったことが紹介された。

一般講演では、口頭の部で『歴史の中のアポセカリ(二)』ロマン派詩人ジョン・キーツ』(青山学院大柳沢波香)が興味を引いた。ヨーロッパ諸国の中で英国だけが独自の薬局業態を保持していることのヒントが秘められており、今後の研究が期待さ

れた。

今回、日本薬史学会として始めて採用されたポスターセッションでは、『ある物理学研究室的挑戦〈パイロット養成から医療人養成へ〉』（昭和薬科大学申田一樹）に、先覚者の実学教育に対する航跡が新たな光芒を放って迫ってくることに今日的感動を覚えた。

シャトルバス（北陸大学提供）で移動した都ホテルでの懇親会は、「加賀料理づくし」が大好評、おもてなし門（鼓門）を真横に見ての会席は、城下町金沢の伝統と文化を余すことなく満喫して、過ぎていった。○第二日目（8日）は学都金沢医薬史跡探訪（実行委員会担当）。ディレクターは北陸大学未来創造学部教授長谷川孝徳先生。北陸大学バスで金沢駅西口を午前9時30分にスタート。金沢大学医学部記念館資料室へ直行する。加賀藩卯辰山養生所に始まり、金沢医学館を経て旧制金沢医科大学、金沢大学医学部へと続く100年の歴史がぎっしり詰まっている。北陸医史学会理事赤祖父一知先生（金沢社会保険病院元院長）の懇切なる解説に予定の1時間があっという間。有名な「キンストレーキ」が解体整備のため不在だったのは唯一の心残りだった。

次なる訪問先「林鐘庵」（北陸大学教養別館）では『五人扶持の松』が圧巻。一同、息を呑む。樹齢450年、高さ7m、枝振り南北24m、東西19m、かさ下330㎡。卯辰山を借景として巨大な盆栽とも見える眼前の庭園に風雅と威厳が凝縮され、至福のひとつときがながれた。この松に永代の扶持米を給した十三代藩主前田斉泰公の器量に

加賀百万石文化の神髄を見ることができる。

昼食は、寺町台の料亭「つば甚」で。お目当ては、茶室「是庵」である。片町（今のスクランブル）の薬種商宮竹屋亀田伊右衛門貞勝の茶室を移築したもの。宮竹屋は福久屋、中屋と肩を並べる加賀藩薬舗御三家のひとつ。元禄二年（1689）松尾芭蕉が「奥の細道」来訪のときは格別の親交があり、城下町を代表する数寄者（文化人）一族であった。美人の女将からは庵にまつわる蘊蓄を拝聴したのち、神妙に茶懐石を味わった。

午後の探訪は、長町の金沢市老舗会館から。家柄町人中屋家邸宅を移築したもの。一階の薬種店舗の再現に際して田中嘉太郎先生（元県薬会長）が深く関わったことが想起される。二階では、金沢老舗会など町民文化展示が関心を呼び、また特別コーナー「金沢の結婚しきたり」では加賀水引や加賀のれんの豪華に目を見張った。

兼六園に向かう。金城霊沢、金沢神社、湯本求真先生顕彰碑と足早に探訪は続く。大著『皇漢医学』を世に問い、わが国のみならず中国からも「伝統医学復興の父」と称えられる湯本求真師は七尾市（鶴浦）出身、旧金沢医専（金大医学部）卒業。「東



五人扶持の松

西医学の融合と統一」を提唱した先覚者である。碑文を熟読玩味する時間が残りすくなかったのは残念。

最後は、金沢医学館正面玄関である。明治3年（1870）重臣津田玄蕃の屋敷に金沢医学館が開設され、スロイス、ホルトルマン、ローレッツなど外人医師を相次いで招聘、石川県立金沢病院として北陸の地における近代医薬学教育の基礎を築いたこと。明治20年（1887）第四高等中学校医学部の校舎となり、明治34年（1901）第四高等学校となって広坂へ移転。その後、医学部は分離独立して小立野で金沢医学専門学校、大正12年（1923）旧制金沢医科大学へと昇格した。それまで津田邸は金沢城大手門前にあったが、この機に保存のため兼六園内に移設されたこと。今は、金沢城・兼六園管理事務所分室として使用されていること、などなど長谷川先生の解説は詳細を極めた。

兼六園を後にして、尻垂坂の車窓から紅葉する卯辰山に別れを告げ、宮竹屋の看板を譲り受けた亀田薬舗、御三家のひとつ福久屋石黒薬局の前を徐行して通過、午後3時30分金沢駅東口（ガーデンホテル前）へ到着。参加者一同、再会を約し、感謝と感動を胸にそれぞれの帰路についた。ここに、金沢医薬史跡探訪は、とどこうりなく終了した。

○市民公開講座『加賀藩と医薬』（石川県薬剤師会担当）は、第2日目（8日）の午後1時30分～4時、金沢都ホテル7階「鳳凰の間」において、開催された。

〔講演Ⅰ〕『伝統薬に光』と題して、金沢大学大学院医学系研究科特任教授鈴木信孝

先生から、「補完代替医療」という硬い言葉が『西洋現代医学を補う』新しいひとつの医療体系であることを、急速にその研究が進行している米国の例を引いて、わかりやすく概説する内容の講演であった。発ガンの予防・治療に植物性医薬品として全活性成分が解明されていなくても安全性と有効性が確認されていれば、医療に採用しようという試みははじまっていることが紹介され、漢方薬やサプリメントにたいする正しい理解と期待を持つことができた。

〔講演Ⅱ〕『加賀三味薬と幕末・金沢図屏風に描かれた宮竹屋について』と題する石川考古学研究会米沢義光先生の講演は、金沢城下町を描いたものとしては第一級資料とされている福島秀川筆「金沢図屏風」の制作願主が宮竹屋亀田本家九世伊右衛門であると言う新説を精緻な歴史考証に基づき、豊富な資料を駆使して行われた。（参考資料）これまではあまり知られていない幕末期宮竹屋の繁栄が余すところなく紹介され、現在の片町の発展振りを知るものには、その先駆的リーダーとして身近な存在になったのではなからうか。金沢学に関心の高い市民から熱心な質疑や提言が次々と出される盛況であった。

（平成21年12月1日記）

参考資料

日本薬史学会2009年会（金沢）－市民公開講座講演資料集－『加賀三味薬と幕末・金沢図屏風に描かれた宮竹屋について』米沢義光著、ヨシダ印刷、金沢、2009



第42回 北陸信越薬剤師学術大会



平成21年11月15日(日)、福井商工会議所(福井県)に於いて、第42回北陸信越薬剤師学術大会が開催された。開催県である福井、富山、長野、新潟、石川から口頭発表31題、ポスター発表22題の発表があった。また、シンポジウムは「薬学教育6年制における薬局実務実習を成功させるために」をテーマに基調講演、各県からの報告、提言および討論が行われた。

シンポジウム (石川県関係者)

- ・実務家教員としての立場から
- ・薬学生長期実務実習について

脇屋 義文
三浦 智子

□ 頭 発 表 (石川県関係者)

第1分科会

- ・聴覚障害者の対応について—対応マニュアルの作成—

山崎 敏誉

第2分科会

- ・石川県における薬局実務実習受け入れに対する取り組み
- 指導薬剤師の為の薬局実務研修と指導用テキストの作成—
- ・インターネットによる実務実習Web指導・管理システム活用の検討

北山 朱美

宮本 悦子

- ・心不全を併発した腎不全に対して苓桂朮甘湯が有効と思われた1例

河崎 文洋

第3分科会

- ・石川県石川中央保健所におけるレジオネラ対策の取組について

八田 志乃

- ・白山市における薬物乱用防止活動

長谷川雪代

- 薬物乱用防止キャラバンカーを活用した取り組みPart II—

ポスター発表

- ・薬局・薬剤師未来への挑戦 後発品への期待(認知度調査) 李 関雄
- ・お薬手帳の利用状況と利用率向上に向けた考察 大柳賀津夫
- ・保険薬局における副作用調査 辰田 義樹
- ・保険薬局におけるインスリン適正使用についてのアンケート調査

釜田真沙美

- ・バーチャル薬局開設を通して学ぶ医薬品・薬剤師業務(3)
- POP広告と一般用医薬品—

宮本 悦子

- ・石川県女性薬剤師会の歩み

金田 孝子

- ・「こどもお薬教室」を開催して

橋本 昌子

- 未来の薬剤師を育てるために—

- ・特別養護老人ホームの服薬支援にとりくんで

清水みさを

2009年石川県女性薬剤師会オープン講座

子育て教室

いっしょに考えようたくましい子育て成功の秘訣！

日 時 平成21年10月4日（日）午後2時～4時

会 場 石川県地場産業振興センター（県庁西側）

本館1F第7研修室

講演

第1部 「小児の感染症について」

内灘こどもクリニック 高 永煥先生

第2部 「大切な子どもへの愛情の伝え方のコツ」

先輩お母さんからのメッセージ

……10年、20年後に判ること……

石川県女性薬剤師会理事 佐倉 有紀



いっしょに考えようたくましい子育て成功の秘訣！

石川県女性薬剤師会理事 佐倉 有紀

石川県女性薬剤師会では年4回会員向けの研修会を企画し、1回をオープン講座として一般の方も対象とした研修会をしてきた。今回、昨年からはまった石川県の子育て支援事業「こども健康サポート薬局」に関連し第一部に「小児感染症」を内灘こどもクリニックの高 永煥先生に第二部を「大切な子どもへの愛情の伝え方のコツ」と題して、おこがましいながら先輩母親として、佐倉より話させていただいた。又、本年は児童の託児を初めて試み、小さなお子さんをお持ちの母親に、大変好評であった。

第一部の小児感染症は新型インフルエン

ザのこどもへの爆発的な流行もあり関心は高く会場ほぼ満席になり、その多くが薬剤師であった。一般の方には少し専門的過ぎるところもあったが、大切な情報は伝わったと思う。私の担当であった第二部「大切なこどもへの愛情の伝え方のコツ」についてこの紙面をお借りして、お役に立てるか判らないが、少しでもお役に立って欲しい！と願いつつ、書かせていただこうと思う。

私がこのテーマを取り上げる必要を感じたのは私の周りで起きる子供たちの異変に驚かざるをえず、しかも、我が子の世代、甥姪の16人中で、4人に不登校から、3人

の大学中退、高校中退者が出るという苦しみを体験していた。そんな中、私の愛する兄弟やその子ども達が、どうしてその様な苦しみを味わなければならないのか？という腹立たしい疑問があった。子どもが15歳でようやく目標の難関高校に入学でき喜びもつかの間、学校に行きたいのに身体がいうことをきかない！（朝まったく起きられなかった。）もう1人は学部生の頃より優秀で、院生として進学したのもつかの間、研究室とのトラブルとかで1年半、通学不能になった。彼らの親はひいき目かもしれないが、優しく、有能な社会人であり、家庭人であったので、目の前で起こる事が信じられなかった。（現在、4人は、その遅れを取り戻すべく各々に頑張っている）。自分自身の子育てについて考えても、まさに薄氷を踏む思いになる。私の友人は「子育てに王道はない！」と言った。山登りと同じ様に、方法は色々あるだろうと思われる。かつ、「子育てにやり直しはきかない。」とも言った。山は動かないが、子どもは成長してしまうのだ。まさに子育て中の母親や、今からその道に入る後輩の方々に何か伝えなければ！という思いが私を突き動かした。誰かが声を上げる事で、次の発言があり、さらにより良い方向性が見つかることを望んでいる。

Pharmavision, 11, 2007において精神科医福西勇夫氏の報告で「新型うつ病」ディスチミア患者の急増に、精神科外来の悲鳴とも思える記事があり、「新型うつ病」では抗うつ薬もカウンセリングも治療効果が

期待できず厄介で慢性化しやすいとの事であった。この文面によると、患者は身勝手に甘えん坊、自分の不満を責任転嫁し、反省の色はまったく無いとのコメントであった。日経新聞2008年8月13日にも「心の病」若い世代に欧米化？とあり同じような内容であった。朝日新聞2008年11月7日「こどものうつって？」の特集があり北海道大学教授傳健三氏の報告によると、こどものうつ病の割合は小4=0.5%、小5=0.7%、小6=1.4%、中1=4.1%と学年があがるにつれて増え、特に中学1年は大人のうつ病の割合とほぼ同じで子どものうつ病の深刻さを伝えていた。それまで専門家も子供のうつ病はまれにしか起きないと考えていたので実際の調査結果は専門家も社会も驚かせたのである。実際、現場の我々薬剤師同士で子どものうつ病の処方箋について話した折、薬の効果を疑問視する意見が多かった。

2000年10月発行の3,000超の症例が発する日本の父母へのメッセージ！「不登校児が教えてくれたもの」森下神経内科・森下一氏が書かれたこの本は私の心をまさに大きな力でブルブルと振るわせた。この本の前文で草柳大蔵氏は「いじめ」「切れる子」「17歳の殺人」の底の底にある日本の病根を素手でぐいと掴んだ内容に驚いた。それほど衝撃的な本であると述べている。御一読をお勧めしたい。

子ども達の異変は、私の町内でも多々見られるので皆さんの回りも同じ状況だろうと推察する。いったい何が原因でどうすれ



ば良かったのだろうか。私の身内の例も、福西勇夫氏の報告例ほど重症ではないが、社会生活に支障をきたし、学校の先生から、精神科受診をすすめられ、受診すると、薬を処方された。しかし、服用しなかった。

子育てをほぼ終え、私なりに考えてみた。子育ての一番に来る大きな基本はその子にとって、世界で一番の絶対的な愛である事は確かである。次に考えたいのは、子どもの育つ過程で、すでに20歳を過ぎているだろう親の立場で、親は子どもにおもねてはいけないのではないか?!ということである。「親」という漢字は旅に出る我が子を木の上より見送るという意味らしい。自立力が大切と言うことだが、一人旅する為の力を鍛えておかないと、大変なのだ。

私の長兄の家族は子ども3人なのだが、子育てに成功した部類だろう。社会性と協調性があり、私の子よりずっと優しい、ハングリー精神を持ち合わせ、世界のどこへ行ってもやって行けるのではないかと思わせる。その兄の子育てはまさに昔の亭主関白・おやじ流であった。(サッシを中心とし

た木工業の自営業者であったが、地域の日本青年会議所で活動していた。) おふろはまず父親から、食事は家族全員で、テレビの番組主導権は父親で夜7時から11時過ぎまで仕事を終えゴロリと横になると、父親はテレビ番組に関して、子どもには一切頓着せずニュース番組中心で、11時の筑紫哲也「ニュース23」を見るのが日課であった。子供たちは、それぞれに宿題や父親の後、お風呂に入ると一緒に「ニュース23」を見るしかなく、好きな番組はビデオに取り、後で暇な時にソット見たという。設計の仕事もあり、早くから、家にパソコンは数台あった。パソコンを扱う事はOKだったが、ゲームは1日20分に制限されていた。日本の家庭におけるテレビの主導権は重大な事である。それを父親が握り、子どもに我慢の教育をしたのか!と思う。(これは、副産物だろうが、成人した子供達は今非常に時事問題に強く社会現象に対する各々の意見を述べる力を備えている。)

兄は、学校の役員を頼まれると断らなかった。兄がPTA会長をしていた時、PTA主催の「朝日拝顔」をしている。希望

した約300名の中学生達を引率し朝4時起床で、20kmを歩いて、海から出る朝日をみたそうで、私は羨ましかった。現在東京で設計の仕事をする、長男が言ったものだ、

「仕事に遅くなり終電が終わったので40分ほど歩いて帰ることがあるけど、なんだか頭がスッキリするんだよね。」…。(朝の散歩は新型うつ病のリハビリとして、効果的である)

そして、子ども達の月のお小遣いは小学校の間、10円であった。私も子どもの小学校でPTA役員をした事があり、その頃やったアンケートでクラスの平均のお小遣いは大体500円であった。我が家もそうだったので、安心した記憶がある。姪は後に私に言ったものだ。「叔母ちゃん、10ヵ月貯めて、手に入った100円をむぎむぎ、ポテトチップス一袋と交換する気にはならないよ。」私が兄や義姉に「よく10円をやり通せたね。」と聞くと、「自営だから、遠足のお菓子を買わねばならないような時はいつでも与えられたし、おやつは家にあったから。」と涼しい顔で答えた。又大学時代の親からの送金も我が家の70%くらいだった。少ないながら、その中から部活の後輩や訪ねてくる従兄弟達に、下宿で手料理をご馳走していた。私達兄弟の育った時代では確にお小遣いは無しが当たり前、大学も奨学金をもらい、その事で、卑屈になる必要はなかった。時代が進んで、兄の子ども達の時、自分達が他の友達より少ないお小遣いながら、親の態度や姿勢の中に何か大切なメッセージを嗅ぎ分けたのではないだろうか。経済観念も非常にしっか

り育っているし、現在社会人になった彼らは、少ない経費で最大限の成果を挙げる！仕事をしている様である。

兄は北島家の頭首として墓を守っている。先祖の位牌は祖母の住む家に祭られているのだが、この家族は祖母を見舞うたびに、仏壇に手を合わせる。私もしつづけることの出来なかった心の部分を持ち、生活の中で、自然体で行なっている。もちろん、この子育てに大切だったのはその妻(義姉)のしっかりした、サポートだったろうと思う。

こう述べるに「古い！」との反論を受けらるだろう。そう、古いのだ。しかし私は信念として感じている、子どもに対する絶対的愛があり、そこにある種の、真理があれば、子どもの心に響くであろう。「古い事の中に潜む大切なもの」を今、我々は反芻する必要があると思うのだ。輪島塗も九谷焼もスゴク古いのだがその価値は世界に通じている。兄に「古いの？」と言うと、「俺はそんなに、古くないんだけどな」とボソリと言っていた。確かに世界の環境問題、食糧問題を兄弟の中で一番真剣に、皆が話題にするずっと前から話題にしていたのは、兄であった。

森下氏は言う、「日本の社会では縄文時代よりこの方いつの時代にも先人から社会的倫理的規範が若者達に伝播されてきた。それが良いにしろ悪いにしろ子ども達は、それを受け入れ、あるいは、はっきりと否定することもできた。昭和10年代(現在60歳代)に生まれ育った人々が人の親になっ

た頃から親から子どもへの伝播が不確かになっていった。(森下氏は「自分の育ちの中でも母親の姿は堂々として眩しかった」と言う)戦争に敗北した日本はアメリカ指導下の民主主義が時の流れとなり、この世代は伝統的な文化と突然訪れた文化の間に挟まれ、迷いの中に入ってしまった。この迷い故に、自分自身は伝統的規範により育てられたが、自分の子ども達にそれを示せなかった。(おずおずと、両方を示すしかなかったのではないか?)

子どもの頃どのような精神世界で育つかという事は、大きくその子の一生を形造っていく。それから後に続く親達はもっと不確かになり、子どもに生きる姿としての模範(同一視の対象:自分がその様になりたいと思えるモデル)を示せなかったのではないだろうか。今の若い世代に対してよく言われる「心の弱さ」や「結婚願望の低さ」は確かに、ここに端を発しているのでは?!と思えて来る。

私は子育ての最初の2年間をアメリカで過ごした。その後もアメリカに残った日本人家族に15年ほどして会ったが、アメリカでは子ども達は親の世界への無謀な立ち入りは禁止されている。(親同士のパーティーや両親だけのレストランでの食事)学生の頃よりボランティアが当たり前で、経済的にも早くから自立心を育てられる。大学は入りやすいが、卒業は難しく、図書館での猛勉強なしでは、大学生活は成り立たない。又ナップサックとテント持参で高校生にもなれば、近くの荒野での2週間くらいのキャン

プは楽しめるとの事であった。アメリカの子育てにはその土地ならではの、伝統と環境があるのだと思う。

最後に子どもとの関わり方をまとめてみた。(私のできなかつた事ばかりなのだが)

■子どもとのかかわり方■

①規則正しい生活の習慣を!

早寝早起き、食事はきちんと食べる。質の良い睡眠は成長ホルモンの分泌に欠かせない。睡眠時には他にコーチゾール、メラトニン、副腎脂質H、甲状腺Hなど多くのホルモンが分泌される。早寝早起きはうつ病の予防としてリハビリにも役に立つ。

(参考I 新型うつ病を治す方法: 税所弘)

②メディア(テレビ、ビデオ、携帯、ゲーム)に子守をさせない。

人間らしい判断力や意志決定能力の中枢である前頭葉の機能は幼児期より急速に発達し小学校の頃におおむね完成する。メディアが一方的に入ってくるのは脳科学的に危険であり、時間制限する必要がある。

(参考II 日本の子どもの自尊感情はなぜ低いのか: 幸福度が世界最低レベルの日本のこども。その心の中。・・精神科医古荘純一)

③お金を与えすぎない。

お金も、食べ物も満腹になると価値や活かし方がわからなくなる。

④正しい事を正しい!と伝え、間違った

事、やってはいけない事をいけない！と伝える。

当たり前のこと：嘘をついては良くない、約束は守らなければならない、人のものを取ってはいけない。

⑤お世話になった方々へ「ありがとうございます。」「感謝します。」を伝える。

きちんと挨拶することは人間関係を作るスタートである。できないと社会に受け入れてもらえない。

（自分の言葉を一番受け止めるのは自分自身である。自分の発した言葉が自分の脳に働きドーパミン、セロトニン、エンドルフィンの分泌を良くすることも証明されている。参考Ⅲ「ツキを呼ぶ魔法の言葉」：五日市剛）

⑥自尊心（プライド？）は低すぎず、高すぎず

子どもを肯定的に受け止め続けると子どもは自尊心を良い状態で保って行ける。

「叱る」ことも大切。普段子どもを「褒めて」おくと叱られた事の重大性に気づく。

「強く・短く」が原則（参考Ⅱ）

⑦子どもの話に耳を傾ける

否定するのでもなく肯定するのでもなく話を聞くことに徹する。大人がすべての答えを用意しない。親の期待を押し付けない。（参考Ⅱ）

⑧いじめ問題でも傍観者にならない。

「いじめられた子は守り通す」「いじめは

決して許さない」と言うメッセージを言葉だけでなく態度で子どもに伝える。

⑨今生きている現実の命のありがたさ、を親子で確認する。

時の流れという大海原を我々は航海している、〈船のやうに年逝く人をこぼしつ〉命の終了と共に我々は逝くのである。人生の時間は豪華客船に乗ってるようなもの。乗船時間を大切にしたい。（朝日新聞 天声人語 09.12.05）

⑩食事はできるだけ自然なもの、砂糖の入りすぎには注意。（特に缶コーヒー、ジュース等）

これらの常習は急激な低血糖を起こし脳内ホルモンの異常、耐糖能異常から、低血糖症と呼ばれる様々な不調を呼ぶことがあり、精神病と間違われる事もある。（マリアクリニック・柏崎良子氏）…私の薬局でも数人経験した。

以上、あくまで、子育ての一つの提案として書いてみた。演題は「いっしょに考えよう子育ての秘訣」である。読んで戴いた方のご批判を仰ぎつつ、皆で話題にできたら！と思う。

県民のための健康講座



第一部 特別講演

「マイ・ドリーム」

スポーツキャスター
神戸親和女子大学客員教授
大林 素子 氏

元女子バレー
全日本エース
アタッカー

◆プロフィール

中学1年からバレーボールを始め、中学3年の時に東京都中学選抜に選出される。その後、高校バレーボール界の名門八王子実践高校に進む。86年日立入社、88年ソウル五輪・92年バルセロナ五輪に出場する。95年イタリアセリエA・アンコーナに所属、日本人初のプロ選手となる。帰国後、東洋紡オーキスに所属、96年アトランタ五輪出場後、97年に引退。
現在、日本スポーツマスターズ委員会シンボルメンバ、JOC環境アンバサダー、環境省チーム・マイナス6%、09年オリンピッククレーラン・アンバサダー、JVA（日本バレーボール協会）テクニカル委員としても活躍中！

第一部

「薬を安心してのむために」

★ビデオ上映

★シンポジウム

「知ってますか？クスリの正しい使い方」

平成21年度県民啓発講座

日時 平成22年1月31日(日) 午後1時～4時00分
場所 ANAクラウンプラザホテル金沢 3階 瑞雲の間
(旧 金沢全日空ホテル)
金沢市昭和町16-3 (☎076-224-6111)

主催 石川県薬剤師会
共催 金沢市薬剤師会
後援 北国新聞社

入場無料
粗品進呈

おさそい合わせおいで下さい!!

【古寺との結縁】その9

浄瑠璃寺

～朱印事始めと安倍夫妻との一度きりの寺巡り～

院瀬見 義 弘

21年12月に29日間の入院を余儀なくされた。12月4日に朋友安倍君が見舞いに来てくれた時の会話である。

「入院のつれづれなるままに、“古寺との結縁”の次回は書いたので、次の次に安倍君と4人で廻ったあの時の様子を書こうと思っているのだが、いいかな？」

「おう、いいよ。あれはいつまでも思い出に残っているよ。よかったなー。いつだったかね？」

「昭和61年やからもう23年前だよ。忘れてしまってることも多いし、思い出せないところはまた訊くから頼むよな」

こうしてこの稿を決めたが、それから2ヶ月後の2月6日に安倍君は何も言わずに旅立ってしまった。何かを訊こうにもきけない浄土へ…。深いショックに落ち込んだまま書くことになろうとは思ってもみなかった。もうはや一年が過ぎようとしている。

安倍夫妻と私たち夫婦4人の初めてのドライブは1986年夏に実現した。当時、彼は赤十字病院、私は社会保険病院に勤務していたので、同時期に夏休みを取ることから計画したのだろう。その頃私は寺巡りに凝りだして間もないこともあって、2人の運

転手があるこのドライブは欲張り過ぎた過酷なスケジュールを生み出した。

1日目は比叡山京都側の麓あたりの法然院、詩仙堂、曼殊院、円通寺を巡った。2日目の9月1日は、観音寺、酬恩庵、浄瑠璃寺から奈良に入り、般若寺、新薬師寺、白毫寺を経て、琵琶湖畔の宿に着いたのは夜8時を回っていた。翌日は比叡山大津側麓にある園城寺、おんじょうじ義仲寺から宇治平等院へとこの間に訪れた寺は十三寺で、いま考えればもう無茶苦茶としか言いようのない強行軍だ。23年前だからまだそれなりの若さがあったということだろう。

京都から奈良へ向かうほぼ中間の京田辺市にあるしゅうおんあん酬恩庵を初めて訪れた。通称‘一休寺’としてよく知られており、室町時代(1456年)にあの頓知で知られる一休さん



朱印第一号の浄瑠璃寺(右)
と第二号の般若寺(左)



アシビの咲く山門

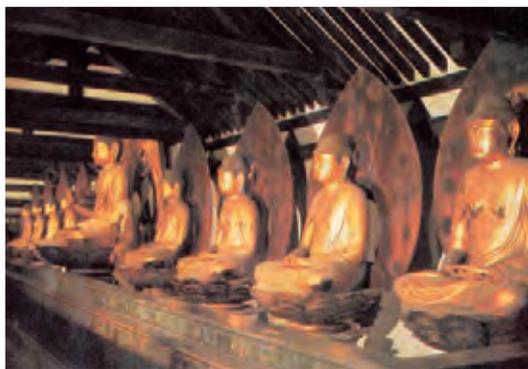


三重塔側からの本堂(1997年11月)

が63歳頃から88歳で亡くなるまでの約25年間住んでいた寺だ。総門をくぐって幾何学的模様の石畳の参道から方丈に入る名勝庭園は見事な風情を醸し出している。さほど広くもない方丈の中を一回りして、出入り口にある受付でお守りや案内書などを何げなく見ていたとき。ご婦人がハンドバッグからおもむろに帳面を出し、字を書いてもらったのを、うやうやしく頂いているのを目にした。「えっ、おい、あれは何やる?」「ふーん、寺のはんこと何かを書いてもらうんだな。人が少なかったことを幸いに、安倍君とこの様子をつぶさに観察して事情を理解できた。これが朱印帳しゅいんちょうだ」とこのときに知った。そこで早速朱印帳を買って求めた。ところが、この一休寺でご朱印をいただくことなく寺を後にして、次の浄

瑠璃寺に向かった。なぜなのか理由は全く思い当たらない。

ここは京都府の奈良県境付近で、むしろ奈良からの交通が便利である。古くから小田原と呼ばれていた地域で真言律宗おだわら小田原山浄瑠璃寺さんじょうるりじという。草創は1047年で最初の本尊が薬師瑠璃光如来だったことにより、本尊に因んだ寺名となった。その後、平安時代末期(1107年)に九体の阿弥陀如来を安置する阿弥陀堂が建立されたといわれる。私たちは今回が2度目であるが、最初に訪れた1984年もやはり夏だった。十一間もある超横長の本堂で一列に整然と並ぶ九体の阿弥陀たい仏(国宝)に圧倒され、鳥肌が立った感動の印象があまりにも強烈だった。安倍夫妻にもぜひここを見せたいとの思いから、少しルートから外れた立地にも



本堂内九体仏



本堂側からの三重塔(1997年11月)

関わらず選んだ理由である。

土産物店や茶店など古い建物が残っている山里的雰囲気横溢する幅3メートルもない狭い参道を通り、寺の規模にしては不似合いなほどの小さな山門をくぐると庭園である。特別名勝の庭園は梵字ぼんじの阿字をかたどったといわれる宝池を中心に、西側には本堂（阿弥陀堂国宝）が、東側には三重塔（国宝）が相対して配されて極楽浄土を表現している。

まずは右に折れ本堂に向かう。受付で拝観料を納めるとともに朱印帳を差し出す。お参りが終わって帰りに受け取るが、観音霊場ではご朱印を受けるのに列をなしていることもある。もともとは祈願浄書した経

文を奉納し、参拝の「あかし」として、その寺社や本尊の名号を墨書し、「宝印」をいただく納経朱印というので、納経帳ともいわれる。ここでは中央に『九体仏』、左に昭和61年9月1日、浄るり寺、と書かれた。他に近くの岩船寺がんせんじでは『阿弥陀如来』、海住山寺かいじゅうせんじは『十一面観世音』、平等院は『鳳凰堂』『阿弥陀如来』あるいは『楽土』と書かれる。よく書き馴れた所では達筆過ぎて読めないこともたびたびある。ただ四国88カ所の寺では年月日は書かれない。その理由はとにかく巡礼者が多く列が長くなるので少しでも早めるための省略かと勝手に考えている。こうしてここから始めた朱印帳は、いま16冊目を数えている

が、第1号の浄瑠璃寺から119番目の聖林寺（奈良1989.10.7）までは、還暦記念として作った一曲二双の屏風のなかに並んでいる。

さて、本堂へはその裏側の濡縁をまわって左手から入り右手へ出る一方通行になっているが、この頃は逆周りであった。本堂内の照明はほの暗く、池に面した障子戸から入る明りに助けられる程度なのがまたよいのだろう。いつも閉まったままの障子にちょっとした穴があると池の方をのぞき見したい衝動に駆られる。堂の長さに比べて天井が低いことも金色鮮やかな九体の阿弥陀如来座像の存在感を増している。中尊（真ん中の尊像）は224cmとやや大きく印相（真ん中の尊像）は来迎印なのに対し、他の八体の印相は定印で138cmから145cmと大きさとお顔には

微妙な違いがあり、作風も若干異なるのでそれぞれ違う仏師が彫ったものと考えられている。

九体阿弥陀仏はこの時代に三十カ寺ほど造られたようだが、現存する唯一のものである。経典では生前の信仰や行いに応じて、上品上生から下品下生まで九通りの極楽往生の方法とその世界があると説くのに基づくものだという。丸いふっくら顔は、平等院や法界寺、それに同じ当尾地区にある岩船寺の阿弥陀如来のお顔と大変によく似ている。いわゆる定朝様の仏像ですべて藤原時代の優美な和様文化とされる。

本堂を出て、池を右回りに散策して石段を二十段ばかり上ると三重塔がある。振り返れば中央の池越し真正面に阿弥陀堂が見える。春秋の彼岸には太陽が薬師と阿弥陀



吉祥天立像



宇治平等院にて(1986年9月)

中尊とを一直線に結ぶよう設計されており、その中心線が池の中島の北端の石に当たるといふ。三方が山の一角に存在する三重塔は朱色鮮やかで、塔の中には薬師如来（重文）が祀られている。通常は塔の扉は閉まっているので拝顔できない秘仏である。正月三が日、彼岸中日と毎月8日のみ、しかも好天に限って開扉される。これを知って、3年後の10月8日に3度目の訪寺を果たし、幸いに好天に恵まれたので薬師如来を拝顔できた。像高は86cmだが、顔から胸の金色と衣の朱の一部は鮮やかに残り薬壺を持つ目鼻立ちのはっきりした座像である。塔内の壁と扉には釈迦の生涯や羅漢僧が描かれている。

もうひとつ秘仏がある。本堂中尊横の厨子ずしの中の吉祥天立像きつしょうてんりゅうぞう（重文）だ。幸福と美の女神といわれ、1212年頃の作と考えられる像で、長く秘仏として祀られてきたため、彩色がとりわけ美しく残っており、ふくよかな頬に切れ長の眼と半弧形の眉が多くの人を引きつける。厨子は1月、3月から5月、10月から11月の限定期間で開扉される。人間ってのは勝手なもので、開扉されているときにたまたま出くわしても、単純にこんなもんかと思うが、扉の閉まっている日が多いと分って開扉の日に行くと、大変な感動とありがた味を覚えるものだ。11月8日なら紅葉もそこそこ、三重塔も吉祥天も開扉される吉日である。

のちに妻と2人で浄瑠璃寺を訪れた1989年の時だと思う。ちょうど昼どきになって

いたので、参道沿いの店‘あ志び乃’に入った。「何にしますか?」、メニューを見て迷っていたが、‘馬酔木定食’とあったので「あー、この‘まよいぎ定食’をふたつ」。「はい、‘あしび定食’ですね」。「??・・・」。

馬酔木はあしびと読むことを知らなかった。無学さを露呈し旅の恥はかき捨てのお粗末な一席。別名‘あせび’といい、ドウダンに似た白い壺型の連なった花を咲かせる低木で、参道を半分過ぎる辺りから山門にかけて馬酔木の並木になっている。

このドライブの最後の夕食は当時松任にあったレストラン「サントス」となった。ここで全員4人が笑い転げる可笑しい話があったが、これだけは4人の間の秘話として終わりたい。安倍君は覚えているかな? 思い出したら、阿弥陀如来の下で大笑いをしてなア。

このあと1997年に市村君らと、2005年には再び安倍君ら参合会の仲間たちと都合8回訪れるがいずれも紅葉期である。何とも言えない心地よい響きの名の浄瑠璃寺は、紅葉とともに胸いっぱい思い出が詰まっているお寺である。

参考書

古寺めぐりの仏教常識 浄瑠璃寺住職
佐伯快勝著 朱鷺書房 1996

日本の仏像No.8 浄瑠璃寺吉祥天と九体
阿弥陀 講談社 2007/8/2

映画「おとうと」のご紹介並びに 会員向け特別前売り鑑賞券の斡旋について

石川県薬剤師会 会長 徳久和夫

平素より、本会会務にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、松竹株式会社では、山田洋次監督、吉永小百合・笑福亭鶴瓶主演の映画『おとうと』を、1月30日(土)より全国公開することとなりました。『おとうと』は、家族の絆をテーマに、夫亡きあと東京の郊外で小さな薬局を営みながら薬剤師として堅実に生きる姉・吟子（吉永小百合さん）と、大阪で芸人に憧れつついつしか年齢を重ねてしまった、何かと問題を起こす弟・鉄郎（笑福亭鶴瓶さん）との再会と別れを描いた、笑いと涙にあふれた物語です。

これまで我が国では、主要な登場人物が薬剤師を演じる映画はほとんどありませんでしたが、この映画では、主役の吉永小百合さんと、その一人娘の小春を演じる蒼井優さんが、薬局の薬剤師役で登場いたします。山田洋次監督は、先の第42回日薬学術大会において、主要な舞台・役柄として薬局・薬剤師を取り上げた理由を次のように述べておられます。「この映画の舞台は、早い時期から薬局に決めていた。街の薬局には、穏やかで充足した暮らしが想像でき、この物語にふさわしいと思った。また、薬局には、地域の人々が立ち寄っては色々な相談をしていく。そこには、お店と顧客との深くて長いつながりを感じる。そこに、吉永さんの優しいお姉さん役と薬剤師のイメージがピッタリ一致した。この映画では、薬局以外にも自転車屋さんなど顧客と深く長いつながりのあるお店も登場するが、そういうお店が私たちの暮らしの中で大切であるにもかかわらず、今日、そうした細やかなつながりが消えつつあることは大きな不幸である」と。

また、映画の後半では、「看取り」や「ターミナルケア」といった現代社会が抱えるテーマにも触れられており、医療に携わる薬剤師としても、一見の価値ある作品となっています。

日薬では、松竹株式会社と連携のもと、本映画を応援していくこととなり、本会としてもこれを紹介方々別紙のとおり本事業に取り組むことに致しました。

各位におかれましては業務ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、一人でも多くの皆様に本作品を鑑賞いただけますよう、ご支援・ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

なお、本映画の詳細につきましては、映画『おとうと』の公式ホームページ（<http://www.ototo-movie.jp/>）をご参照ください。



原稿を募集しています。

- ◇「県薬レポート」では、この小冊子をより一層愛されるものにしたと願って、読者の皆様から広く原稿を募集しています。
- ◇テーマや内容、体裁は自由です。評論、随筆、意見、提言、店頭体験談、趣味の話、詩、短歌、俳句、川柳、或はマンガ、イラスト、カット、写真等々何んでも結構です。ただしあまり長いものは御遠慮の程を……。
- ◇用紙や宛先等は下記のとおりです。
用紙：400字詰原稿用紙又はハガキ
切：特に設けていませんいつでもどうぞ
宛先：金沢市広岡町イ25-10
社団法人石川県薬剤師会内
その他：採否は編集係におまかせ下さい。

なお、いただいた原稿はお返しできませんのでご了承下さい。

「県薬レポート」編集係

編集員：池田智恵子、坂元 倫子、茶谷美年子、
中森 慶滋、西上 潤、三浦 智子、
森 正昭
石川県薬剤師会ホームページのアドレス
<http://www2.icnet.or.jp/~isiyaku/>
※近日中に変更いたしますので改めてご案内させていただきます。
会員専用パスワード
ID: ipa01 password: 1111 (いずれも半角入力)
eメール・アドレス
isiyaku@plaza-woo.jp